

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○生徒の夢をかなえる学校 ○地域と共に歩む学校 ○教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○夢の実現を目指して自律的にかつ誠実に学び続けることができる生徒 ○変化や困難に対して柔軟にかつたくましく対応することができる力を有する生徒
	ありたい 教職員像	○生徒の学力向上に努めるとともに、生徒の人権・健康・安全を守ることができる教職員 ○同僚性を発揮するとともに、互いに支えあうことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒、保護者> 学習指導・生徒指導・進路指導・部活動指導の充実 <地域> 地域活性化への貢献、卓越した取組とその成果の継承	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<家庭> わかる授業、学力の定着・向上、部活動の充実、希望進路の実現、安心して学べる環境 <中学校> 学校の様子、卒業生の近況報告、入試情報などの情報提供 <地域社会・企業等> 地域活性化への貢献、話題性によるイメージの向上	<家庭> 学校教育への理解・協力・支援、家庭での指導 <中学校> 基礎学力の定着、本校教育内容の理解 <地域社会・企業等> 教育活動への理解・協力・支援、学習成果を発表・活用する機会の提供
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学実績の向上のためには、効果的なカリキュラムの構築も必要だが、一番重要なのは教員の授業力向上である。生徒アンケートの実施等について検討されたい。</li> <li>・昨年度より自宅学習の改善があまり見られない。今の生徒は宿題等与えれば真面目にやるのではないか。工夫をお願いしたい。また、現状で満足するのではなく、一つ上の高みを目指す指導をお願いしたい。</li> <li>・生徒募集に関わっては、私学の専願や授業料完全無償化の影響で今後も厳しい状況が続くと思われる。松阪地区の公教育を維持していくためにも、関係者が課題をしっかりと共有するとともに、高進対（松阪市公立高校進学対策協議会）等から県教委への働きかけを今まで以上にしっかりと行っていく必要がある。</li> <li>・専門学科の生徒と比べ、普通科の生徒の目的意識は低いように思う。キャリア教育を充実させ、しっかりと自分の進路の道筋を考えられるようにしてやってほしい。</li> <li>・毎年の測量士の合格実績には感心する。ただ、公務員を目指すのであれば、経験上、土木施工管理技術者試験の方が将来的に役に立つと思う。</li> </ul>	

(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動については、部活動ガイドラインをふまえ、生徒や保護者の視点を大切にして全教職員が足並みをそろえて取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい大学入試の仕組みや企業が求める能力等の情報収集に努め、生徒の進路希望が実現できる指導体制の充実に努める必要がある。</li> <li>「命を大切にする」「政治的教養を育む」教育については、学校教育活動全体で取り組むことの意義を再確認し、全校体制で取り組む必要がある。</li> <li>探究学習については、研修等を実施し、これまでの課題を整理しながらより一層充実した取組となるようにする必要がある。</li> <li>SPH 事業において構築された教育内容、シラバス、実習計画等にそって教育実践をすすめるとともに、定期的に検証を行い、教育の改善充実に努める必要がある。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル教育については、今後、生産経済科、環境創造科においても外国の生徒と交流する機会を持てるように工夫する必要がある。</li> <li>相可ブランドをより一層確実に知っていただくために、学校説明会や出前学校説明会等の充実に努めるとともに、積極的な情報発信を行う必要がある。</li> <li>国の働き方改革の動向をふまえ、定時退校や部活休養日については、個人へ働きかける回数やヒアリング・指導・助言の内容を工夫するなどしてより強く改善を進める必要がある。</li> <li>指導要領の改訂内容を含め、今後求められる教育については、情報収集に努めるとともに研修を深め、実施に向けての着実な準備を進める必要がある。</li> <li>部活動の活動時間や指導方法等については、現状の課題を洗い出し、より一層適切な指導となるよう全教員の共通理解を図るとともに、部活動ガイドラインの徹底を図る必要がある。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「生徒の夢をかなえる学校」に関して 「主体的・対話的で深い学び」の実施により、生徒がこれからの社会で必要となる学力や能力を確実に身に付け、地域社会やグローバル社会において活躍しようという意欲を持ちつつ希望進路の実現を果たしている。</li> <li>○「地域と共に歩む学校」に関して 各学科がそれぞれあるいは相互に連携を図りながら、本校ならではの特色ある取組をグローバルな視点を持って行い、地域の活性化に貢献している。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校」に関して 授業・分掌業務・部活動指導等について、同僚性を発揮するとともに、協力・協同して取り組む体制が確立するなど、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し、活気のある明るい組織風土が醸成され、多くの生徒・保護者・職員が学校に満足している。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導	<p>○オンライン教育による学習保障を図ります。</p> <p><b>【活動指標】</b> 各教科・科目でのオンライン教育の実施。</p> <p><b>【成果指標】</b> 各教科・科目でのオンライン教育の実施率:100%</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」について、各教科・科目での充実を図ります。</p> <p><b>【活動指標】</b> 各教科・科目での「主体的・対話的で深い学び」の実施。</p> <p><b>【成果指標】</b> 各教科・科目での「主体的・対話的で深い学び」の実施率:100%</p>	＜年度末に記載＞	◎
生徒指導	<p>○高校生として自主・自立の生活態度を養わせる指導の充実を図ります。</p> <p><b>【活動指標】</b> 挨拶、時間厳守、マナー遵守など基本的な生活習慣の確立</p> <p><b>【成果指標】</b> 基本的な生活習慣が確立している生徒の割合:90%</p>		
進路指導	<p>○3年生全員の進路希望実現を目指します。</p> <p><b>【活動指標】</b> 進路希望調査に基づく企業訪問と情報交換の実施。小論文ガイダンスの実施等、文章指導の充実。入試改革についての情報収集、共有。</p> <p><b>【成果指標】</b> 生徒の希望する企業との情報交換:100%。 小論文ガイダンス:1回以上</p> <p>○生徒の主体性を涵養し、生徒自身が能動的に進路実現を果たせるよう、3年間を通じたキャリア教育の充実を図ります。</p> <p><b>【活動指標】</b> 総合的な探求の時間、LHR等を活用した進路指導の実施。ポートフォリオの実施。インターンシップの実施。全学科での実力テスト実施。</p> <p><b>【成果指標】</b> 進路学習の実施:各学年3回以上。 ポートフォリオの実施:各学期1回以上</p>		
保健指導	<p>○生徒が健康上の課題を認識し、生涯にわたって、より健康的な生活を送るための実践力を身につけるよう適切な援助や啓発を行います。</p> <p><b>【活動指標】</b></p>		

<p>専門教育</p>	<p>感染症の予防啓発。ヘルスカウンセリングの充実。各種掲示物・配布物等による啓発、指導の実施。</p> <p><b>【成果指標】</b> 保健だより、カウンセリングだよりの発行:各年3回</p> <p>○資格取得や各種大会への出場を推進し、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図ります。</p> <p>○他教科・他学科・地域との相互連携を図り、地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指します。</p> <p>○食物調理科においては、SPH事業によって得られた成果をもとに教育実践を行います。</p> <p><b>【活動指標】</b> 他教科・他学科・地域との連携</p> <p><b>【成果指標】</b> 他教科・他学科・地域との連携の実施率:100%</p>		
改善課題			
<年度末に記載>			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報発信	<p>○中学生が本校への進学を希望するよう、情報発信を積極的に行います。</p> <p><b>【活動指標】</b> 中学校との連携、学校説明会の実施、ホームページの活用、関係者・報道機関への情報提供</p> <p><b>【成果指標】</b> 募集定員の充足率:100%</p>	<年度末に記載>	◎
組織力の向上	<p>○校内研修の実施により、教職員の資質能力を向上させるとともに、同僚性を育みます。</p> <p><b>【活動指標】</b> 校内研修の実施</p> <p><b>【成果指標】</b> 校内研修の実施:1回以上</p>		
信頼される	<p>○事例研究・研修等を通して、教職員のコンプライアンスに対す</p>		

<p>学校づくり</p> <p>働きやすい 職場環境づくり</p>	<p>る意識を高めます。</p> <p><b>【活動指標】</b> コンプライアンス研修の実施</p> <p><b>【成果指標】</b> 不適切事案の発生:ゼロ</p> <p>○健康で働きやすい職場環境づくりのために、総勤務時間の縮減に取り組みます。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ノー会議で一、ノー残業デー」(定時退校日):月2回</li> <li>・放課後に開催した会議の時間設定:60分以内</li> <li>・部活動休養日の設定:週1日</li> <li>・時間外労働時間(月平均、月45時間以上、年360時間以上)</li> <li>・休暇取得:平均年間休暇取得日数を前年度比で年1日増加。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した日の定時に退校できた教職員の割合:80%</li> <li>・会議時間60分以内の実施率:80%</li> <li>・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合:80%</li> <li>・1人当たりの月平均時間外労働時間:30時間以下</li> <li>・月45時間を超える時間外労働者の人数:0人</li> <li>・年360時間を超える時間外労働者の人数:0人</li> <li>・1人当たりの年間休暇取得日数前年度比年1日増加達成率:100%</li> </ul>		
<b>改善課題</b>			
<年度末に記載>			

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった 改善課題と次へ の取組方向</p>	<p>&lt;年度末に記載&gt;</p>
--------------------------------------	-----------------------

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動につ いての改善策</p>	<p>&lt;年度末に記載&gt;</p>
<p>学校運営につ いての改善策</p>	<p>&lt;年度末に記載&gt;</p>